

第4回化学遺産市民公開講座

『化学遺産認定始まる』

平成22年3月28日(日) 13時～16時40分

近畿大学本部キャンパス 21号館2階205号室

(東大阪市小若江、日本化学会第90春季年会S3会場)

交通：近鉄大阪線「長瀬」駅または近鉄奈良線「八戸ノ里」駅下車徒歩10分

プログラム

総合司会：化学遺産委員会委員・化学史学会会長 亀山 哲也

13:00～13:15 開会挨拶・紹介

『日本化学会化学遺産委員会の遺産認定事業』

(日本化学会化学遺産委員会委員長／岡山理科大学教授・京都大学名誉教授) 植村 榮

13:15～13:55 (座長：植村 榮)

講演1 『喜多源逸－京都大学に工業化学の伝統をつくった男』

(日本大学生物資源科学部教授) 古川 安氏

13:55～14:35 (座長：岡崎廉治)

講演2 『化学遺産：日本の化学の開拓者－宇田川榕菴・高峰讓吉・池田菊苗』

(日本化学会化学遺産委員会委員／大阪大学名誉教授) 芝 哲夫氏

14:35～15:05 (座長：三浦勇一)

講演3 『化学遺産：日本舎密製造会社とルブラン法炭酸ソーダ製造法塩酸吸収塔』

(日産化学工業(株)小野田工場) 北嶋 昭氏

休憩 (30分)

15:35～16:05 (座長：若林文高)

講演4 『化学遺産：旭化成と延岡市－カザレー式アンモニア合成が遺したもの』

(旭化成(株)延岡支社延岡総務グループ課長) 山口 孝氏

16:05～16:35 (座長：内田正夫)

講演5 『化学遺産：ビスコース法レーヨン工業の発祥が教えること』

(日本化学会化学遺産委員会委員／日本化学会フェロー) 田島 慶三氏

16:35～16:40 閉会挨拶 (日本化学会化学遺産委員会顧問／放送大学副学長) 荻野 博

【主旨】

日本化学会化学遺産委員会では、これまで春季年会会期中に化学遺産市民公開講座を開催し好評を博していますが、今回の第4回化学遺産市民公開講座では、日本化学会が平成21年度から開始し第1回化学遺産として認定された学術および産業関係の6件の歴史的・技術的な意義を中心にご紹介いたします。奮ってご参加ください。

- 参加費：無料 講演資料代 1,000円(予価)
- 申込方法：『化学遺産市民公開講座』参加希望と明記し、①氏名、②所属・役職、③連絡先住所(〒)・電話番号・fax番号・e-mail、を明記し、下記あてe-mailにてお申し込みください。当日参加も可能です。なお、本化学遺産市民公開講座のみに参加希望の場合には春季年会への参加登録は不要です。
- 問合せ先・申込先：日本化学会事務局企画部(担当：太田幸子 oota@chemistry.or.jp)

企画：日本化学会化学遺産委員会

主催：日本化学会・化学史学会／共催(予定)：日本化学工業協会・化学技術戦略推進機構ほか